

平成30年度

事業報告書

公益財団法人 通信文化協会

目 次

1	はじめに	1
2	郵政博物館の運営事業	1
	（1）郵政博物館活動	1
	（2）博物館の交流活動	2
	（3）資料センター活動	3
3	前島密賞の贈呈事業	3
4	会報「通信文化」の発行事業	4
5	文化講演会の開催等通信文化の普及・発展事業	5
	（1）文化講演会等の開催	5
	（2）青少年ペンフレンドクラブ(P F C)への活動支援	6
	（3）社会貢献活動の実施	6
6	土地・建物賃貸事業	6
7	会員に対する諸施策	6
	（1）記念品等の贈呈	6
	（2）「郵政博物館」入館料の割引	6
	（3）叙勲祝賀会の開催	6
	（4）新年賀詞交歓会の開催	6
8	団体傷害保険等の取扱い	7
9	会員増加対策	7
10	役員会議等開催状況	8
	（1）理事会	8
	（2）評議員会	9
11	業務等の見直し	9
○	「事業報告の附属明細書」はない旨の記載	9

1 はじめに

本協会は、明治41年5月に通信協会として発足、同43年には「財団法人通信協会」に改組し、百余年の歴史を刻んできたが、平成24年3月28日、内閣総理大臣から公益財団法人として認定を受け、同年4月1日に「公益財団法人通信文化協会」として新たにスタートした。

当協会は郵政博物館の運営、前島密賞の贈呈、通信文化の普及・発展等に関する事業を行い、もって我が国の手紙等文字コミュニケーション文化と情報通信・放送文化の向上に寄与することを目的として文化活動等各種施策を実施した。

収蔵施設については千葉県市川市 行徳郵便局内に「郵政博物館資料センター」を設置している。

2 郵政博物館の運営事業

郵政博物館は、郵政・通信文化の普及・発展に向け次世代の利用者との幅広い交流を図り、歴史的資料・知識を後世に伝えることを目的として、東京スカイツリータウン・ソラマチ9階にオープンして5年目を迎えた。

「展示」、「収集・保存・調査研究」、「文化・教育普及、生涯学習支援」という博物館における3つの活動を行い、不特定多数の方にとって文化教養を磨く場、教育普及の場としての活動を行っている。

(1) 郵政博物館活動

常設展示場では、「心ヲツナグ 世界ヲツナグ」をコンセプトテーマとして、体験型のデジタル機器や映像手法などを使って郵政文化を楽しく体感できる展示を行っている。

企画展示場では、重要文化財をはじめとする貴重なコレクションの展示を行ったほか、郵政・通信文化の歴史を伝承するとともに文化・学術・教育の発展への寄与を目的とした、特別展(企画展)を以下のとおり、年間を通して4回開催した。また、多目的スペースにおいても、時季に応じた各種のイベントを開催した。

郵政博物館の平成30年度の入館者は62,141名(対計画102%)、開館日数は346日で、一日平均180名であった。

ア 特別展(企画展)開催状況

No	特別展名	期間	開催日数	入館者数(人)
1	幕臣たちの文明開化展	平成30年4月20日 ~7月1日	71	12,722
2	どうぶつゆうびん局へようこそ! -はしもとみおの木彫の世界-	平成30年7月14日 ~9月9日	58	17,578
3	鐵-鉄道と郵便-展	平成30年9月22日 ~12月24日	83	12,158
4	THE STEAMPUNK-螺子巻奇譚-	平成30年1月1日~ 平成31年3月17日	73	11,048

イ 多目的スペース等での主なイベント開催状況

No	主催者	イベント名	期間
1	郵政博物館 NPO 法人郵趣振興 協会	郵博 特別切手コレクション展 第1回 郵便制度史展 2018 第2回 郵便番号導入 50 周年展 第3回 動植物国宝切手の神髄展 第4回 珠玉の菊切手コレクション展 第5回 第6回ヨーロッパ切手展 第6回 第2回いずみ展 第7回 国際切手展凱旋切手展	・ 4月20日～4月22日 ・ 6月30日～7月1日 ・ 10月6日～10月8日 ・ 10月13日～10月14日 ・ 11月3日～11月4日 ・ 2月2日～2月3日 ・ 3月8日～3月10日
2	株式会社キャラアニ (協力：郵政博物館)	キャラアニ.com スプリングフェスティバル	4月28日～5月6日
3	郵政博物館	新収蔵資料展	6月16日～7月1日
4	郵政博物館(すみだ企業博物館連携協議会)	明治を探そう	7月21日～9月30日
5	tomoart (協力：郵政博物館)	チャックまとラジオ体操展	9月15日～9月17日
6	郵政博物館 (協力：一般社団法人日本絵手紙協会)	みんなの絵手紙年賀状展 2019	11月17日～1月27日
7	郵政博物館 (協力：公益社団法人日本漫画家協会)	まんが年賀状	12月1日～1月27日
8	郵政博物館 (協力：株式会社アイデア工房)	第10回年賀状甲子園	12月1日～1月27日
9	郵政博物館	Naffy イラスト展「Mou(ム)」	2月5日～3月5日
10	郵政博物館	星野藍写真展「頽廃放浪記」	3月16日～4月7日

郵政博物館以外では、前島記念館(新潟県上越市)、坂野記念館(岡山県岡山市)及び沖縄郵政資料センター(沖縄県那覇市)において、地域に縁の深い資料の展示活動を行っている。

(2) 博物館の交流活動

当協会では、協会会員サービスの観点も含め、海外の郵政資料施設・郵政博物館との交流事業として、広く参加者を募った視察旅行を企画して、相互の歴史・文化の交流を深める活動を行った。

平成30年10月18日～10月21日 中国・郵票博物館ほか参加者 9人

平成31年 3月 6日～ 3月 9日 台湾郵政博物館ほか 参加者13人

また、墨田区における地域活動として、区内に所在する5つの博物館*が連携した「すみだ企業博物館連携協議会」の施策として明治150年を記念した合同イベントを実施したほか、「すみだ北斎美術館」との連携等により、地域振興・活性化施策の推進を図っている。

※当館ほか、花王ミュージアム、セイコーミュージアム、たばこと塩の博物館、東武博物館

(3) 資料センター活動

ア 資料の収集・保存、調査研究事業活動

資料の収集・保存は、あらゆる博物館活動の基盤となる重要な活動であり、昨今のネット情報社会に対応するため、収蔵資料のデジタル化を推進し、ネット上で公開した。

調査研究については、不特定多数の方から関心を持たれ、評価されることを目指した通信文化に関する研究活動を積極的に推進した。

(ア) 郵政歴史文化研究会の開催（第1～第5分科会および特別研究等）

(イ) 研究紀要の発行（第10号）

(ウ) その他調査研究・修復・保存整理の実施等

イ 文化・教育普及、生涯学習支援

日本郵政グループや報道関係者、他の博物館・美術館、研究者等に対して積極的に収蔵資料の撮影や閲覧、取材等に対応して照会回答を行ったほか、通信文化資料の有効活用のために、資料貸出（77件）のほか外部機関で講演会などを積極的に行った。

No.	項目	件数
A	貸出	77件
B	撮影・データ提供・掲載・放映	81件
C	特別閲覧	111件
D	取材・照会回答	273件
E	原稿提供・監修	30件

また、教育・普及活動の一端として、大学在学中の博物館学芸員課程受講者を対象に博物館実習を行っているほか、日本郵政グループの社員研修などへの協力も実施した。

3 前島密賞の贈呈事業

前島密賞は、近代国家の建設に当たり、社会の基盤となる郵便や物流をはじめとしたネットワークを整備し、国民の暮らしに多大な利便性をもたらした逓信事業の創始者である前島密の功績を記念し、文字コミュニケーション・情報通信・放送分野でその精神を伝承・発展せしめるために、昭和30年度に創設された。以来、同分野において顕著な功績のあった方々1,069名・11団体に贈呈して、その功績を称え顕彰するとともに文字コミュニケーション・情報通信・放送文化の発展に寄与してきた。

平成30年度の前島密賞（第64回）については、例年同様に各推薦機関（総務省、日本郵政㈱、日本電信電話㈱、日本放送協会、電気通信事業者協会、日本ITU協会、日本民間放送連盟、テレコムサービス協会、電波産業会、日本ケーブルテレビ連盟）から推薦を受けることとして実施した。

平成30年7月25日に募集要綱をホームページで公表するとともに、同年9月30日を締切日として推薦を依頼し、2回の選考委員会及び理事会決議を経て22名（うち共同研究13名）・1団体の受賞者を決定し、平成31年4月10日に多数の参加者の下に贈呈式を開催した。

なお、受賞者22名・1団体の氏名、功績概要等は、各報道機関に通知したほか、当協会のホームページでも公表した。

4 会報「通信文化」の発行事業

記事内容については、読者の約6割を占める郵政グループ現役社員に一層役立つものとするため、社会の多様化に対応した内容の記事として「ダイバーシティ通信」を引き続き掲載し、毎月、郵便局等での様々な人々の活躍や郵便局での取り組みなどのレポートを掲載した。

また、郵政グループの経営関連の記事を増強したほか、マネジメントに関する記事も多く掲載した。

健康問題については、広く読者全体に最も関心の高いところから、引き続き、東京逓信病院の専門医が毎月交代で執筆する「ドクターに聞く 病気と健康」を掲載し、読者からは好評を得た。

また、読者への還元として、当選者に各地の名産品等が当たる「読者プレゼント」を引き続き実施した。

特集記事コーナーでは、著名人による講演会の内容を「岡野裕基金記念講演会」記事として紹介し、毎回読者アンケートで好評を得ている。

なお、こうした会報編集に加えて、会報に掲載・同梱する広告の募集にも力を入れ、昨年度に引き続き広告収入の確保に取り組んだ。

年間12回 744,000部発行 (月平均62,000部)

(敬称略)

発行月	特集記事	執筆者又は話し手
30年 4月	岡野裕基金記念講演会 一瞬に賭ける生き方	元読売巨人軍 鈴木尚広
5月	座談会 台湾の歴史と文化をたどる旅(Ⅱ)	斎尾親徳 柴田長俊 杉浦英幸 野崎怜香 長谷川雅也 藤浪正輝ほか
6月	第63回前島密賞受賞記念講演 いつまでも 心をつないでいきたい	元日本放送協会アナウンサー室 桜井洋子
7月	岡野裕基金記念講演会 ワクワク郵便局をつくるのは私だ	(株)カモガシラランド 鴨頭嘉人
8月	岡野裕基金記念講演会 SKYACTIVエンジン開発の志	マツダ株式会社常務執行役員 人見光夫
9月	明治一五〇年記念講演 幕臣たちの文明開化	東京大学名誉教授 石井寛治
10月	インタビュー 目標はフラガールの支配人	常磐興産(株)代表取締役社長 井上直美
11月	対談 ラジオとコミュニケーション	通信文化協会理事 亀渕昭信 佐村知子
12月	岡野裕基金記念講演会 しあわせにはたらく言霊	タレント・長野大学客員教授 松山三四六
31年 1月	中国旅行座談会 進展するIT社会の現状を見る	斎尾親徳 信田篤 杉浦英幸 野口準 山崎雅也 吉野喜昭
2月	岡野裕基金記念講演会 コミュニケーションの型	(株)らしさラボ代表取締役 伊庭正康

3月	岡野裕基金記念講演会 野球を通じてのトップとしてのマネジメント	日本女子プロ野球機構スーパーバイザー 太田幸司
----	------------------------------------	----------------------------

5 文化講演会の開催等通信文化の普及・発展事業

(1) 文化講演会等の開催

当協会の元会長である故 岡野 裕氏の夫人からの寄附(1億円)による「岡野裕基金」により、全国各地において、「文化講演会」を13回、総数1,915人の参加を得て開催するとともに、手紙教室等についても92回、総数8,091人の参加を得て開催し、文化活動を行った。

文化講演会等開催状況

地方本部	開催日	施策名等	講師	開催場所	参加者数
北海道	30.11.9	「地域おこし」から「地域のこし」の経営理念	(株)セコマ 代表取締役 丸谷 智保 氏	札幌市	170名
東京	30.9.21	ウィークエンドセミナー 「ソーシャルスタイルトレーニング (コミュニケーション手法)」	(株)らしさラボ代表取締役 伊庭 正康 氏	新宿区	85名
	31.1.25	ウィークエンドセミナー 「心にしみる顧客満足」	(株)クロフネカンパニー 中村 文昭 氏	中野区	140名
南関東	31.2.4	見せるプレゼンテーション 「まとめ力」向上講座	株式会社ミセルカ 代表取締役 上口 まみ 氏	川崎市	64名
信越	30.7.31	「しあわせにはたらく言霊」	タレント・長野大学客員 教授 松山 三四六 氏	長野市	302名
	31.1.30	「仕事は楽しく、自分に限界をつくら ない～楽しむ心が道を拓く!～」	(株)日本レストランインターブライズ 駅弁マイスター 三浦 由紀江 氏	長野市	239名
東海	30.9.1	年金セミナー	社会保険労務士・ 年金コンサルタント 安江 美和子 氏	名古屋市	88名
	30.9.2	年金セミナー	社会保険労務士・ 年金コンサルタント 安江 美和子 氏	静岡市	23名
	31.2.2	生活設計セミナー	社会保険労務士・ 年金コンサルタント 安江 美和子 氏	名古屋市	79名
近畿	30.9.26	野球を通じての 「トップとしてのマネジメント」	日本女子プロ野球機構 スーパーバイザー 太田 幸司 氏	大阪市	255名
中国	31.2.13	「夢をかたちに」一庇護からの脱出と 自立	オオアサ電子(株) 代表取締役社長 長田 克司 氏	広島市	130名
四国	30.11.28	組織力を最大限に発揮するマネジメント とは	(株)ロジカルマネジメント 代表取締役 岩城 博之 氏	松山市	120名
九州	30.9.14	「心をつかむコミュニケーション」	貴乃花部屋女将 花田 景子 氏	熊本市	220名

(2) 青少年ペンフレンドクラブ（PFC）への活動支援

ア 地域交流会活動支援

手紙によるコミュニケーションの活性化を全国的に広めるため、日本郵便(株)各支社において開催された「PFC会員交流会」の講師の手配、会場の確保、ノベルティグッズの提供などの支援を行った。(計8回 参加者数391人)

イ 「レターパーク」読者プレゼント

「レターパーク(会員会報誌 毎月1回発行)」は、PFC会員メリットの重要ツールとなっている。

読者に「通信文化協会」のPRも兼ねて、抽選により毎回20名へ賞品(レターセット等)と会報「通信文化」を贈呈した。

(3) 社会貢献活動の実施

社会貢献活動の一環として、ポスト清掃等を実施した。(計9回 参加者数332人)

6 土地・建物賃貸事業

全国6か所に所有している土地は、引続き日本郵便株式会社等へ賃貸しているほか、文京区湯島に新築した新湯島ビルの2・3階各室を賃貸マンションとし、その入居管理・ビル管理等を委託して、円滑な運営と安定した賃貸収入を確保するとともに、計画どおりの借入金返済を行った。

7 会員に対する諸施策

会員に対して、次の施策を実施した。

(1) 記念品等の贈呈

ア 会員へのサービスとして、満61歳を迎える年度以降に在会10年以上となる個人会員1,195人に対し、「長期在会記念品」を贈呈した。

イ 米寿を迎えた個人会員499人に「米寿記念品」を贈呈した。

ウ 協会手帳を配付した(希望者のみ)。

(2) 「郵政博物館」入館料の割引

会員サービスの一環として、本人及び同伴の家族が入館する場合、入館料50円の割引を実施した。(割引後の入館料 大人250円、小人100円)

(3) 叙勲祝賀会の開催

勲章を受章した本部及び関東・東京・南関東地方本部所属の会員を対象に、本部及び関東・東京・南関東地方本部の共催で、春と秋に祝賀会(米寿祝賀会を併合開催)を開催した。また、北海道、東北、中国、九州及び沖縄地方本部においても叙勲祝賀会を開催した。

(4) 新年賀詞交歓会の開催

東京都内と関東・南関東地域在住の会員を対象に、本部及び関東・東京・南関東地方本部の共催で1月11日(金)、東海大学校友会館(霞が関ビル35階)において開催した。また、北海道、東北、北陸、東海及び中国地方本部においても新年賀詞交歓会を開催した。

8 団体傷害保険等の取扱い

通信文化協会会員及び郵政グループ社員を対象とする福利厚生のための傷害保険等契約状況は、次のとおりである。

【平成30年度における契約状況】

区 別	口・件数	保 険 料
団 体 保 険	80 千口	547 百万円
団 体 扱 保 険	5 千件	246 百万円

9 会員増加対策

平成30年度の会員増加対策については、新規入会の個人会員会費の1,000円割引キャンペーンの継続や定年退職者等のシニア会員への継続確保施策に取り組み、事業運営の基盤である会員の獲得に努めることとし、純増目標として、個人会員・法人会員(口数)を合わせた950人/口として設定した。

地方本部における勧奨活動体制としての運営委員会の開催や地域に密着した参与の積極的な勧奨活動体制の強化、また、会員サービスとしての会報の掲載内容充実を図り、身近な「地方本部だより」の発行、会費の税制優遇の周知などにより、新規加入会員は2,989人となったものの、対前年度末の個人会員数・法人会員(口数)に対しては、542人/口(対目標57.1%)の純増に留まった。

会員の現況は次のとおりである。

区 別	平成30年度末	平成29年度末	増・減
個人会員(人)	61,976	61,410	566人増
法人会員(口)	918	942	24口減

(個人会員地方本部等内訳)

区 別	平成30年度末(人)
北海道	5,493
東北	6,212
関東	5,598
東京	4,971
南関東	2,154
信越	4,198
北陸	2,329
東海	6,957
近畿	8,551
中国	4,674
四国	3,014
九州	6,732
沖縄	465
本部	628
合 計	61,976

(参考)

「免除会員及び在会15年以上となる終身会員に対する寄附のお願い」として、平成22年度から会報の配付を希望する会員には会報郵送料等相当の寄附(支援)をお願いしており、平成30年度は1,960人の会員から総額2,987,100円の寄附収入があった。

10 役員会議等開催状況

重要案件の審議のために開催した会議は、次のとおりである。

代表理事の職務執行状況の報告は、第21回及び第23回理事会において行った。

(1) 理事会

○ 第21回理事会(平成30年5月28日)

- <議案> 1 平成29年度事業報告
2 平成29年度決算報告
3 特別寄附金の受入れ
4 定時評議員会の開催日時等

○ 第22回 理事会(平成30年6月18日 書面決議)

- <議案> 1 代表理事の選定

○ 第23回 理事会(平成31年2月18日)

- <議案> 1 第64回前島密賞の授賞者決定
2 平成31年度事業計画
3 平成31年度収支予算、資金調達及び設備投資の見込み
4 特別寄附金の受入れ
5 公益目的事業内容の変更
6 定時評議員会の開催

(2) 評議員会

○ 第13回 評議員会(平成30年6月18日)

- <議案> 1 議長の選出
2 議事録署名人の選出
3 平成29年度決算報告書
4 役員等の再任回数
5 理事の選任

○ 第14回 評議員会(平成31年3月6日)

- <議案> 1 議長の選出
2 議事録署名人の選出
3 平成31年度事業計画
4 平成31年度収支予算、資金調達及び設備投資の見込み

1.1 業務等の見直し

協会の存立基盤である会員の確保・会費収入の確保は協会財務に連動する極めて重要な業務であるため、より一層、地方本部における執行体制の強化を図れる本部長等人材の活用・登用を推進している。

また、会員確保・会員サービスの観点から実施している海外の郵政博物館視察の計画・実行に当たっては、引き続き専担の職員の配置を行い、円滑な実施を図っている。

平成30年度事業報告書には、「一般社団法人及び一般財団法人に関する法律施行規則」第34条第3項に規定する附属明細書「事業報告の内容を補足する重要な事項」が存在しないので作成しない。

令和元年5月

公益財団法人 通信文化協会